

# 甘長とうがらし‘三宝’の露地栽培における 秀品率向上のための整枝方法

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

甘長とうがらし‘三宝’は本県固有の伝統野菜であるが、収量性の高い品種の導入により栽培が激減した。一方、‘三宝’は辛味がなく食味が良いことから市場評価が高い。このため、産地では品種を‘三宝’に統一し生産拡大を図っている。しかし、産地の一戸当たりの栽培面積は小規模であるとともに露地栽培は収量、品質が不安定で、十分な生産量が得られていない。そこで、秀品収量の増加を図るため、整枝方法が収量および秀品率に及ぼす影響を調査した。

### (2) 情報・成果の要約

- 1) 4本V字整枝または4本直立整枝により放任栽培よりも秀品率が向上し、秀品収量が増加する。
- 2) 4本V字整枝は4本に分枝した主枝を開張部が畝幅となるよう2本ずつV字型に誘引し、V字の内側は過繁茂にならないよう、側枝を3節程度で摘心する。
- 3) 4本直立整枝は4本に分枝した主枝を畝中央部に等間隔に直立させて誘引する。側枝は原則放任とし、通路にはみ出た部分を適宜切除する。
- 4) 誘引は麻紐などを用い、7～10日おきに主枝に軽く巻き付ける。主枝は170cm程度まで伸長するので、誘引の高さは170～180cmとする。
- 5) 整枝により収穫時に果実が容易に確認できるとともに、立ったままの姿勢で収穫作業が可能のため収穫労力の軽減が期待できる。
- 6) 比較的小規模な栽培で整枝栽培を導入することで、品質向上による生産量および収益の増加が期待できる。

## 2 試験成果の概要

### (1) 試験の概要

甘長とうがらし‘三宝’を5月上旬に定植し（露地黒マルチ栽培）、慣行の放任栽培（フラワーネット栽培）と整枝栽培を比較した。株間50cm、マルチ幅60cm、畝幅150cmで栽培した。

### (2) 4本V字整枝

2011年から2014年の結果では、秀品率が40.3～41.5%で放任栽培を3.2～5.7%上回り、秀品収量が4～33%増加した。総収量は2011年は15%増加したが、2012年、2013年、2014年は放任栽培と同等であった。また、A品（曲り果）果数はいずれの年次とも放任栽培よりも少なかった。

### (3) 4本直立整枝

2013年、2014年の秀品率はそれぞれ39.6%、59.1%で、放任栽培を3.5%、7.4%上回り、秀品収量が6%、14%増加した。総収量は2013年は放任栽培と同等であったが、2014年は8%増加した。A品（曲り果）果数も放任栽培の70%程度で少なかった。

また、9月以降は他の整枝方法よりも収穫果数が多く、収量も多くなった。

- (4) 上物平均1果重は整枝方法で差がなかった。また、台風などの強風下でも4本V字整枝、4本直立整枝とも茎葉に問題となる損傷は生じなかった。

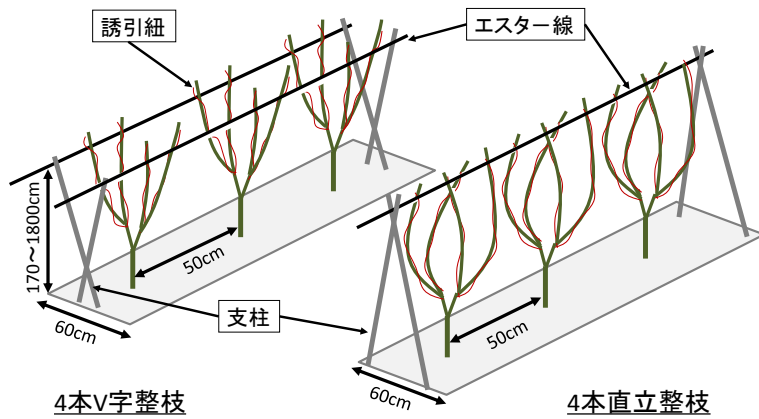


図1 整枝方法の模式図

表2 整枝方法と規格別収量

年次	整枝方法	総収量		秀品		優品		上物(秀+優)		A品		その他*	
		(果)	(kg)	(果)	(kg)	(果)	(kg)	(果)	(kg)	(果)	(kg)	(果)	(kg)
2011年	放任	25,488	533	8,463	191	7,889	171	16,352	362	1,632	31	7,504	140
	4本V字	28,659	614	11,159	255	8,890	196	20,049	451	1,489	30	7,121	133
2012年	放任	36,166	689	15,366	310	12,662	239	28,028	549	793	16	7,345	125
	4本V字	36,179	680	16,120	328	10,348	195	26,468	523	741	16	8,970	142
2013年	放任	42,666	806	14,482	291	13,936	314	28,418	605	481	11	13,767	189
	4本V字	43,430	801	16,028	323	13,541	271	29,569	594	475	12	13,386	195
	4本直立	43,315	780	15,483	309	13,435	258	28,918	567	327	7	14,070	226
2014年	放任	23,400	547	11,479	283	6,058	138	17,537	421	1,053	26	4,810	101
	4本V字	25,051	551	12,428	306	6,123	133	18,551	439	689	15	5,811	96
	4本直立	25,155	591	14,079	349	6,396	144	20,475	493	806	20	3,874	77

※その他は小果、障害果等。

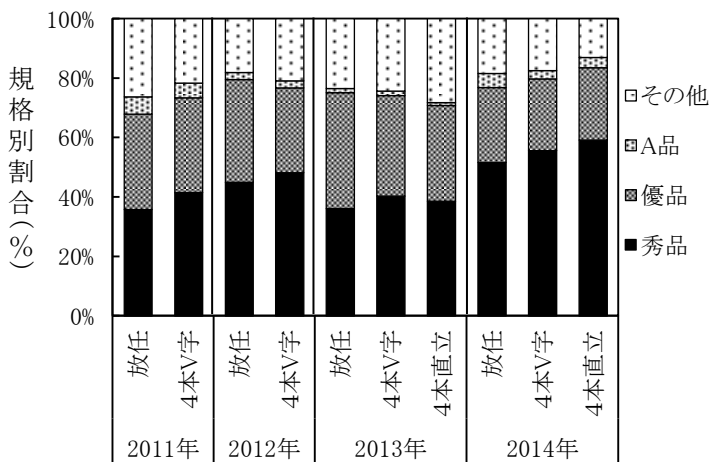


図2 整枝方法と規格別割合

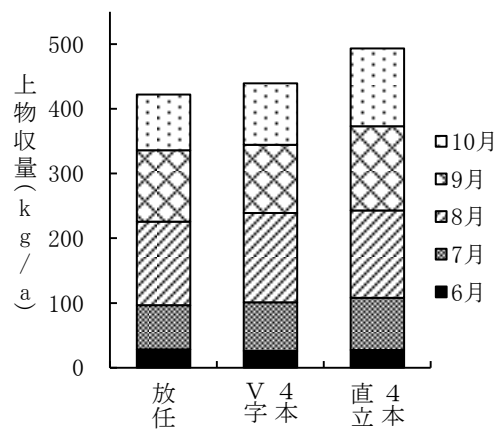


図3 整枝方法と月別上物収量(2014年)

### 3 利用上の留意点

- (1) 4本V字整枝は内側が繁茂しすぎると受光効率や収穫作業効率が低下するので、収穫時等に側枝を適宜、摘心する。
- (2) 4本直立整枝はエスター線一本に主枝4本分の荷重がかかるため、倒伏しないように4本V字整枝よりも丈夫な支柱を設置する。

### 4 試験担当者

〔 野菜研究室 室長 石原俊幸 〕